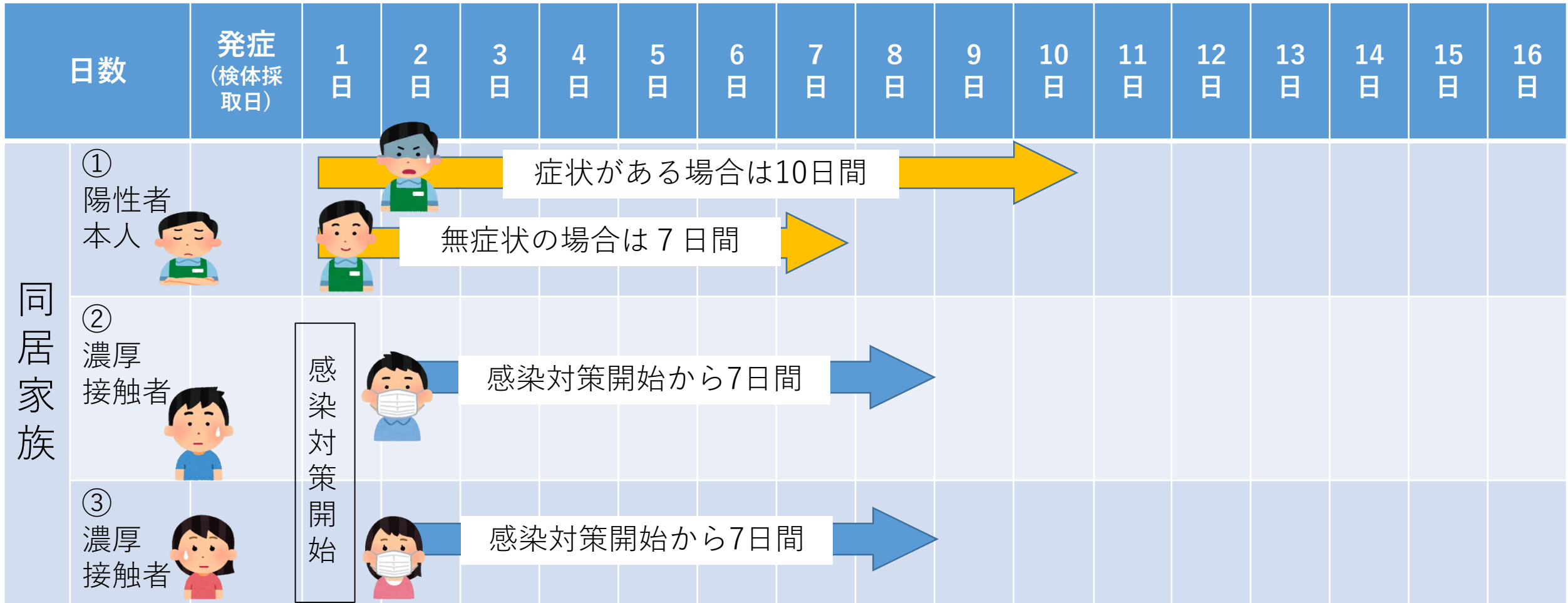


(参考) 家族が陽性となった場合の待機期間の考え方

➡：療養期間

➡：待機期間


パターン① 基本的な考え方 感染対策を開始した日から7日間の待機



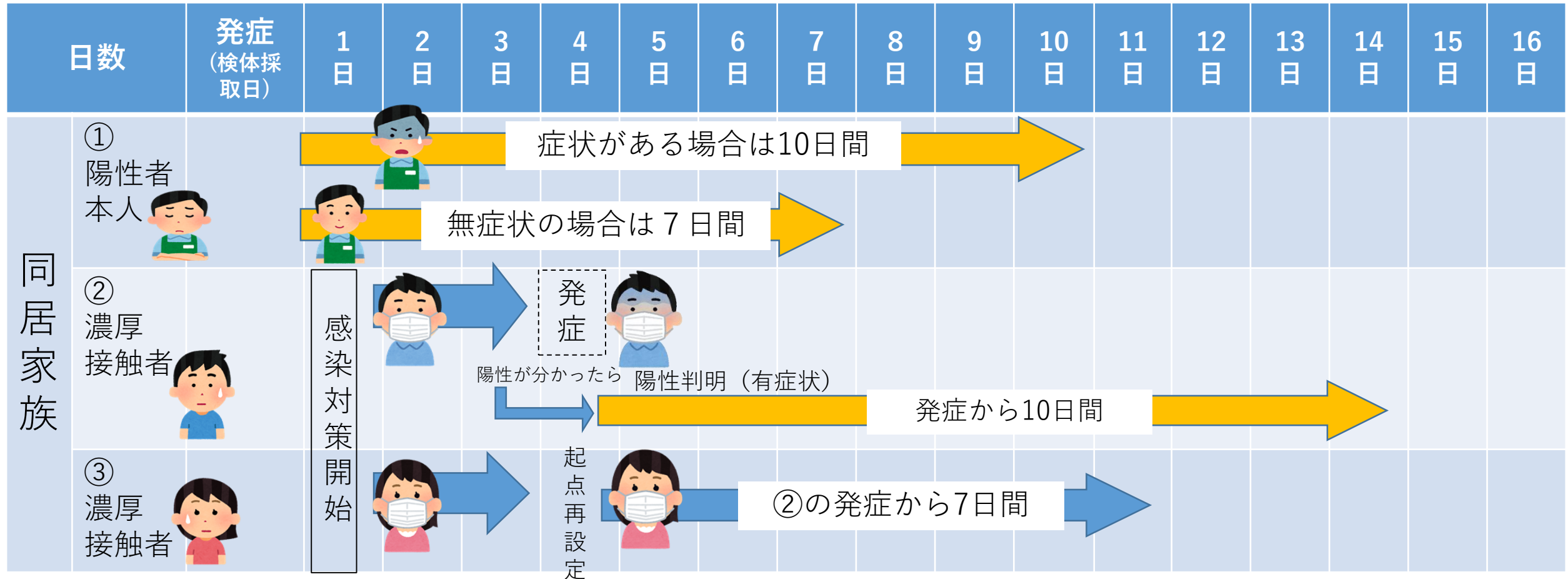
陽性者は、同居している家族等があとから陽性になった場合でも、療養期間の延長はありません。
ただし、家庭内に陽性者がいる間に療養解除となった時は、家庭内にウイルスが存在している状態ですので、マスクや手洗いを念入りにするなど家庭内外での感染対策には十分気を付けてください。

(参考) 家族が陽性となった場合の待機期間の考え方

 : 療養期間

 : 待機期間

パターン② 家族に陽性者が発生（有症状）した場合は、発症日を起点に待機期間を再設定



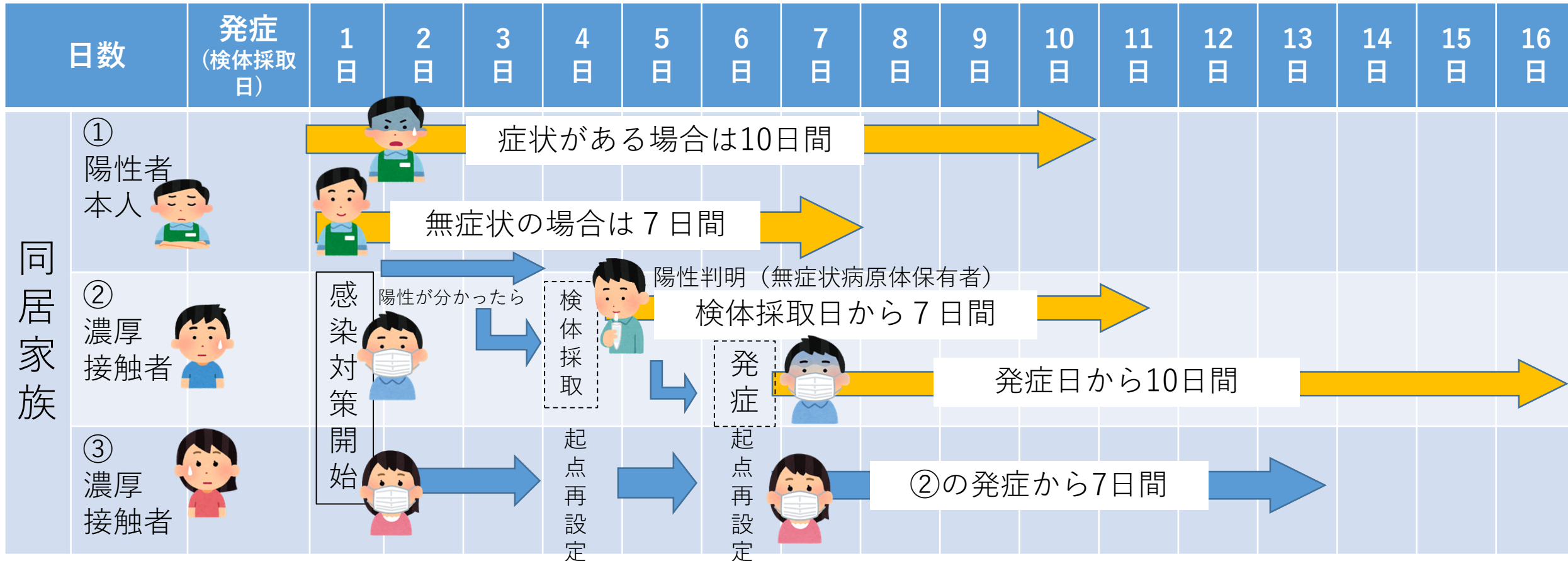
陽性者は、同居している家族等があとから陽性になった場合でも、療養期間の延長はありません。ただし、家庭内に陽性者がいる間に療養解除となった時は、家庭内にウイルスが存在している状態ですので、マスクや手洗いを念入りにするなど家庭内外での感染対策には十分気を付けてください。

(参考) 家族が陽性となった場合の待機期間の考え方

➡：療養期間

➡：待機期間

パターン③ 家族に陽性者が発生（無症状）した場合は、検体採取日を起点に待機期間を再設定
更に無症状病原体保有者が発症した場合は、発症日を起点に再々設定



陽性者は、同居している家族等があとから陽性になった場合でも、療養期間の延長はありません。ただし、家庭内に陽性者がいる間に療養解除となった時は、家庭内にウイルスが存在している状態ですので、マスクや手洗いを念入りにするなど家庭内外での感染対策には十分気を付けてください。